



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第2080号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市梅名393-1 ブケ東海三島
TEL(055)984-0120
会長 栗原 達治 幹事 藤江 康儀



広重版画より 三島 朝霧

第2143回例会

2016.12.15晴

司 会 石井良衛君

ロータリーソング 「日も風も星も」
指揮 柴崎恵子君

会長挨拶

副会長 西本和夫君

月一回、会長挨拶の練習も6回目となりました。

栗原年度も早いもので半期終了が来週のクリスマス親睦家族例会となりました。今年度も様々な行事を行ってきましたが来年4月からの例会場の変更や退会する会員もあつたり残念な事もありました。当クラブは2月18日の「IM」が控えており、3月の苗栗ロータリークラブの記念式典参加、苗栗交換中学生の送り出し、4月には創立45周年など大きな行事があります。諸先輩方の築いた事業と伝統を会員全員の協力で行いたいと思います。私は苗栗ロータリークラブの記念式典に参加したかったのですが同日にPETSとなつてしまいましたので残念ですが参加できません。

これから次年度に向けて色々な準備がありますが特に委員会構成では皆様方のご協力をよろしく願いいたします。会員一人一人がロータリーの魅力を語れるような居心地の良いクラブを目指したいと思います。

幹事報告

幹事 藤江康儀君

①国際ロータリー第2620地区ガバナー生子哲男様から「RI意義ある業績賞」推薦の願いが届きましたので当クラブ社会奉仕委員会・佐々木委員長に委員会活動についてコメントをお願いしてあります。

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修出席正率
前々回	40/45	91.11%	42/45	93.33%
今回	36/41	87.80%	会員総数	48名

欠席者 川名君、窪田君、小島君、橋本君、山口君

ロータリーの特別月間

- 8月 会員増強・新クラブ結成推進月間
- 9月 基本的教育と識字率向上月間
- 10月 経済と地域社会の発展月間
- 11月 ロータリー財団月間
- 12月 疾病予防と治療月間
- 1月 職業奉仕月間
- 2月 平和と紛争予防／紛争解決月間
- 3月 水と衛生月間
- 4月 母子の健康月間
- 5月 青少年奉仕月間
- 6月 ロータリー親睦活動月間

日本独自の月間

- 9月 ロータリーの友月間
- 10月 米山月間

2016～2017年度
国際ロータリー会長
ジョンF.ジャーム

人類に奉仕するロータリー

おめでとう

会員誕生日 千葉君
結婚記念日 花房君、鈴木(郁)君



スマイルボックス

- ◆花房君、一昨日、娘が男の子を授かりました。やっとおじいちゃんになりました。
- ◆IM総務委員会、2月18日のIMの出欠のご連絡を、来週の家族例会までお願いしております。特に、受付やご接待で、奥様方のご協力をお願いしたいのですが、今のところご参加が少なくピンチです。是非とも多くの奥様方のご参加をお願い致します。
- ◆平出君、昨年の秋に中国の麗水市で写真展が開催されました。その時、麗水市で撮った写真を三島市役所の玄関に展示しました。来週の火曜日まで展示しておりますので、市役所に行ったら見て下さい。
- ◆宇田川君、遠藤正幸様、大変お世話になりました。
- ◆藤江君、本日、文芸三島第39号入賞者表彰式出席のため早退させていただきます。すみません。
- ◆ゴルフ同好会、12月9日～11日多治見西RCとの交流懇親会・ゴルフコンペを開催しました。大歓迎を受け楽しくそして充実した2泊3日でした。ゴルフコンペの結果は、優勝平出さん・準優勝宇田川さん・3位伊丹さんでした。次回は、今度の日曜日に裾野カンツリーで行います。

卓 話

「一万時間の法則」をめぐる

野田和秀君

皆様、「一万時間の法則」という言葉を耳にされたことはありますか?この言葉はマルコム・グラッドウェルの「OUTLIERS (外れ値) The Story of Success」日本語訳では「天才」(勝間和代=訳)という著書の中の言葉です。私がこの言葉と出会ったのは、元リクルート社員で、東京都杉並区立和田中学の校長(民間人で初めて)でもあった藤原和博氏のインタビューの中でした。氏はリクルート社で、営業やプレゼンで一万時間以上費やしたそうで、「仕事を面白くやるには、自分の土俵で勝負すること、そしてその前提として土俵を選ぶ資

格があるのは、一万時間の練習をした人」と言っている。これは自分の仕事の世界で過去を振り返ってみても解る気がします。若い人達にこれは伝えていくべきかなと思うんですね。

ところで、グラッドウェルは、「天才」の中の「一万時間の法則」の章でビートルズを例にあげていて、彼らは出身のリバプールでなく、ドイツのハンブルグのほとんどストリップ劇場かというようなバーで一日8～10時間演奏させられた、そして1964年爆発的な成功を収めた時には約1200回のライブをこなしていた、と述べている。これがあのビートルズを作ったんだと、勿論天才的な才能もあったんでしょいうが、やはりそういう一万時間の実演奏後に必然的に生まれたということでしょうか。

音楽の話ついでに私の趣味であるバイオリンについて少し話をさせて下さい。18歳から始めて再来年で50年になります。平均して1年で150時間ぐらい練習と本番で弾いてきたのではと思うのです。多い年はそれ以上だったと思いますが、1万時間には到らずとも遠からずといったところに来たのではと思います。やり始めの頃にこの1万時間の法則のことを知らされていたらどうだったでしょうか?就職で沼津に来てから、室内楽やオーケストラで合奏しながら続けていましたが、クラシック、オンリーでした。ところが、ロータリーに入って、アメリカン・ポップスやJAZZ好きの仲間から歌を教わり、とりわけ亡くなったナベさんにナッツ・キング・コールを聞かされ、私は変わりました。またその後、おやじバンドを結成して練習が始まり、下手なくせに一人でバイオリンを弾くことを余儀なくされた訳ですが、これは今思うと本当に好機というしかないです。アマチュアでクラシックだけをやっている人間には、そんな機会は無いのが普通ですから。そして1万時間に到達する大きなパワーをもらった気がします。

冒頭で挙げた藤原氏は、リクルート社のスローガンである「自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ」こそ成熟社会での人生を切り開くキーワードであると言っていますが、趣味の領域とは申せ、私にとって、ロータリーへの入会、そしておやじバンドが機会となり、音楽への関わり方が変わったと思います。このスローガンは、ロータリーへの入会勧誘の言葉としても使えると思いますが、如何でしょうか。

最後に、引用ついでにもうひとつ、私にとって墓場まで持っていきたい言葉があります。17世紀イギリスの作家・詩人であるサミュエル・バトラーの「人生とは、人前でバイオリンを弾きながらしだいに腕を上げてゆくようなものである」という名言です。何事も上達するためには、日頃の努力に加え、時には人前で恥をかくことも必要ということでしょうか。

本日は「私にとってのロータリー」を趣味の音楽にかけて考えてみました。ご清聴ありがとうございました。

(週報担当:佐野宏三)